

平成22年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	既施設設及び休耕地を利用したにんにくの栽培
事業主体 (連絡先)	喬木村 小川区 (喬木村 小川区長 原 直通)
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	808,842 円 (うち支援金 : 730,000 円)

事業内容

小川区において、にんにく栽培部会の結成。
 JAみなみ信州喬木支所の久保田技師によるにんにくの栽培講習会・肥料選定講習会および検討会の実施。
 区民が見学しやすい遊休荒廃地にてにんにく種球の試験栽培の実施。
 先進地視察による保管管理に関する学習会の実施。
 土壌調査、施肥管理、農薬散布管理、選定した肥料施肥による適正な栽培方法の実証試験の実施。
 にんにく種球貸与に関する規定の確立。
 にんにく栽培についての地域住民に対するPR活動。



【にんにく植え付け風景】

自己評価 (事業実施率) 【B】

事業効果

にんにく栽培の普及の為の部会が結成され、新しい地域特産品定着のための足がかりが築けた。
 生産希望者の為のにんにく種球の生産も順調に進み、概ね50a分の種球の確保が期待できるに至った。
 当該地域圏におけるにんにくの植付時期、適正品種が明確となり、当該地域圏で安易且つ安価で効果的な適正肥料が明確となった。
 にんにく栽培地を公開することにより、にんにく栽培希望者も着実に増え、種球貸与規定も確立された。

【目標・ねらい】

- 農業収入の増加
- 生産者の生産コスト軽減
- 生産者の生産リスク軽減

自己評価 (目標達成率) 【B】

今後の取り組み

第1期のにんにく試験栽培において、種球の生産を行い、併せPR活動を行ったが、遊休荒廃地の有効的な利用の促進及び、新地域特産品としての位置を定着させるためには、更なる栽培面積の拡大、収穫量の増加を目指す必要がある。今後は、今回発足した小川区にんにく部会を中心に、生産者からも生産ノウハウを集め、適正生産方法を更に研究し、資料化を行い、また、それに伴う検討会及び研修会を行っていくこととするほか、加工品としての製品化を検討してゆくこととする。

※ 自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。